

『生産性向上支援訓練』を利用した方の声

宮城興業株式会社様 (南陽市)

DX・ミドルシニア 生産管理コース 全6コース

- ・訓練コース名：生産性向上支援訓練
- ① (生産計画と工程管理)
- ② (生産性向上のための課題と「ラインバランシング」)
- ③ **DX** (ビジネスとSDGsの融合)
- ④ **ミドルシニアコース** (チーム力の強化と中堅・ベテラン従業員の役割)
- ⑤ (生産性分析と向上)
- ⑥ (生産現場の問題解決)
- ・訓練期間：令和4年8月～令和5年2月
(月2回の金曜日の午後に訓練実施 1コース3時間×2…6コース)
- ・受講者数：延べ100人
- ・ポイント：
 - 生産管理の従業員共通理解 ●チーム力強化のための知識・技能習得
 - SDGsの取り組みの理解を深める(自社の取り組み、先進他社の取り組み他)



SDGs

Reuse, Recycleの取り組み

プロフィール

- ・所在地：山形県南陽市
- ・従業員数：60名
- ・創業：1941年
- ・主な業務内容：革靴製造業

事業主の声

1941年、国策の軍用靴生産から創業した当社は、本革に徹した革靴の製造・販売を主力事業として、常に「お客様本位」の立場で80年にわたり顧客の期待に応えてまいりました。

しかしながら、Q/C/Dの管理体制は軟弱で属人性の作業により順不同の物の流れがあり、非効率的で無駄な動きがいたるところである状況でした。職人気質の環境が5Sの推進に大きな障害になっておりました。数年前からは海外の低価格商品に押され国内の市場が冷え込んできました。加えて、コロナ感染症の影響で革靴離れが加速しています。当社においては、生産革新による2Sの徹底、間詰、1個流し、リードタイムの短縮、在庫削減等が遅々として進まない状況でした。

当社のSDGsの取り組みとして、Reuse (革の端材等を利用したブランド「TUFF STUFF」の展開、革製品の修理受付)やRecycle (革ペーパーや靴中物利用)等をしてはいますが、従業員のSDGsの理解はあまり進んでいない状況でした。

この状況を打破しようと、今回の生産性向上支援訓練を導入しました。先生方からのわかりやすい指導を受け、社員の取り組み方が少しずつ向きになりつつあります。チームで取り組もうという意識も生まれてきました。周りを巻き込んだスキルUPを期待しています。

今後も生産性向上支援訓練を活用して人材教育を継続し、経営基盤の強化を進めてまいります。



<代表取締役社長 高橋和義さま>

受講者の声

今まで作業個々の主張やものの見方をされていて、社を挙げて取り組んでいる生産革新の目的や意味が理解できず全体の統制が取れない状況で、生産計画は未達成でした。

今回の訓練を受講して先生方の指導を受け、この生産革新の取り組みがとても大切であることを理解することができました。工場運営の基礎知識を得ることもできました。

SDGsについては、Reuse・Recycleの自社の取り組みが先進的であることを改めて理解することができました。SDGsが環境負荷の軽減だけでなくビジネスチャンスにもなりうるという新しい視点で考えることもできました。

今後も生産性向上支援訓練のカリキュラムの中から自分達に必要なものの見方・考え方・取り組み方を習得し、周りの人を巻き込みながら、更なるスキルUPを目指していきます。



<製造課 底付係 高橋竜太さま>